（1）　明治20年創刊　第39282号　（第3種郵便物認可）　（日刊）

上毛新聞

浅間山が噴火

嬬恋で住民避難

爆発音、山火事も　広範囲に赤い噴石

気象庁は一日、本県と長野県にまたがる浅間山（二、五六八メートル）が同日午後八時一分ごろに噴火し、大きな爆発音と振動が観測された上、噴石が火山の中腹以上の広範囲にかけて確認され、とする臨時火山情報を発表した。同庁は浅間山の火山活動レベルを「2（やや活発な火山活動）から3（山頂火口で小―中噴火が発生）に変更し、十分注意するよう呼び掛けている。県や地元などでは災害警戒本部を、県警は災害警備連絡室をそれぞれ設置、嬬恋村は村民らの避難所を確保、住民六十人以上が避難している。同山周辺の道路は通行止めとなり、関越道の一部区間では一時、降灰による速度規制も実施された。人的被害は確認されていない。

同庁によると、火口から南側斜面などに二メートル内の範囲に赤い噴石が落下したのは、降灰が確認されたのは長野原町、草津町、吾妻町、高山村、浅間山の火山性地震の発生回数が八月三十一日午後から増え始め、今月一日午前零時から午前十一時まで計百二十九回（暫定値）を数えた。

浅間山は二〇〇一年六月から活動が活発化し、昨年二―四月にごく小規模な噴火が起きていた。有史以降でみると、すべて山頂から噴火し、プルカノ式と呼ばれる爆発型の噴火が特徴。火砕流は一七八三年、ともに大規模な噴火で、火口から南側斜面などに二キロの火山弾が五分間ほど降った。

浅間山では